平成 30 年度　大山小学校の取り組み

宜野湾市立大山小学校教諭　上江洲育子

Ⅰ　研究主題名

主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成
―他者に配慮しながら，外国語を用いてコミュニケーションを楽しむ授業づくりを通して―

Ⅱ　研究主題設定の理由

宜野湾市は英語教育特例地域として平成 15 年から英語教育を推進し，成果を上げている(宜野湾市英語教育特例事業報告書参照)。 しかし，平成 32 年度の新学習指導要領の実施に向けて，宜野湾市のこれまでの取組をいかし，外国語・外国語活動を再構築する必要性がある。

新学習指導要領で，外国語・外国語活動の目標は「外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせ外国語による聞くこと・(読むこと)・話すこと・(書くこと)の言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地(基礎)となる資質・能力を育成することを目指す」と示されている。つまり，外国語を用いて相手に尋ね，自分のことを伝え，コミュニケーションを楽しむことのできる児童の育成をねらっている。また，外国語科では「聞くこと・読むこと・話すこと［やり取り］・話すこと［発表］・書くこと」の 5 領域を，外国語活動では「聞くこと・話すこと［やり取り］・話すこと［発表］」の 3 領域を設定し目標の実現化を目指している。話すことが［やり取り］と［発表］の 2 領域に分かれ，ゲーム中心の授業や Q&A の質問形式のコミュニケーションが主であった授業を改善し，より自然な［やり取り］や自分のことをわかりやすく伝えるための［発表］を相手に配慮しながら行うことでコミュニケーションの素地(基礎)となる資質・能力を育成するものである。

以上のことより本校の校内研修のメインテーマ「主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成」を外国語・外国語活動でもメインテーマとし，研修の方向性を統一することとした。さらにサブテーマを～他者に配慮しながら，外国語を用いてコミュニケーションを楽しむ授業づくりを通して～と設定し，相手意識をもったより自然なコミュニケーション活動ができる授業づくりへ取り組むこととした。

Ⅲ　研究の主な内容

平成 30 年度･平成 31 年度は,外国語の教科化･新学習指導要領の実施にむけた移行措置期間である。宜野湾市では，その期間も中学年 35 時間・高学年 70 時間の先行実施を行うこととしている。本校では文部科学省からの「移行期間の学習内容案」をもとに年間指導計画をたて，高学年は「Hi! Friends」と新教材「We can」を。中学年は新教材「Let's Try」の内容を指導することとする。そこで，**平成 30 年度は新教材「We can」「Let's Try」の指導内容の理解と外国語・外国語活動を教師自身が学びのモデルとして授業実践し，外国語・外国語活動を楽しむステップとする。**

また，ALT・JTE と HRT の役割を明確にし，それぞれが役割を果たすことで，児童が実際に「英語を使ってコミュニケーションできる授業づくりを実践していく。

ALT・JTE：コミュニケーションの相手　英語モデル
英語の発音を聞かせ、自然な表現をインプットする。
できる子をみつけるのが上手→ほめる役割

HRT：コミュニケーションの相手　学習モデル
授業をデザインする。授業をコントロールする。
つまづいている子への支援が上手→励ます役割

↓

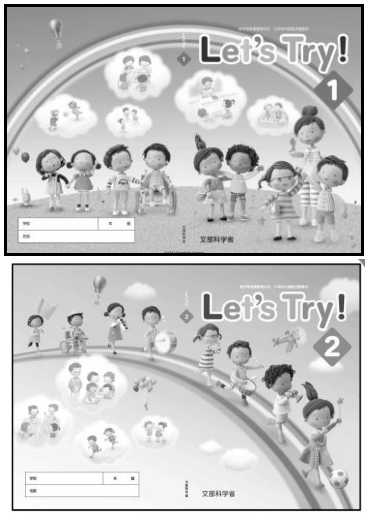
それぞれが役割を果たすことで、児童が「**英語を使ってコミュニケーション**できる」授業になる。**言いたいことが英語で言える**ようになる。

学習への意欲・英語への興味・関心

低学年の内容

- あいさつ(自己紹介)
- 気持ち
- 天気と曜日
- 数・年齢
- 色形
- くだもの・植物
- 動物・昆虫
- 体の部分
- スポーツ
- 感謝祭
- クリスマス

中学年の内容



高学年の内容

◎他者へ配慮したコミュニケーション活動　◎新教材「Let's Try」「We can」の授業実践

◎ALT・JTE と HRT の役割の明確化　◎HRT：授業をデザイン・コントロールする・学習モデル

Ⅳ　研修日程

	英語授業		宜野湾市特例地域	外部専門機関(英語教育強化加配教員)	校内研・学校行事
	低中学年	高学年			
1学期	HRT・JTE	HRT・ALT	【4 月】 ALT・JTE 研修 英語主任研・予算説明会 特例地域研修案提出 ○教育委員会による ALT・JTE 授業参観	【4 月】 年間予定確認(義務教) 事業予定提出(文科省) 研修会(中教事)(義務教)	4/9 始業式 4/10 入学式 4/18～25 家庭訪問 4/26 春の遠足 5/8-11 体力テスト 5/27 日曜授業参観 **6/17 運動会** **6/29 公開授業(5 年)** 7/20 終業式
2学期	HRT・ALT	HRT・JTE	○教育委員会による ALT・JTE 授業参観 **【12 月】** **英検 Junior(5・6 年)** **英会話形成テスト(1～4 年)**	**【9 月】** **公開授業(中頭)　9/21** 【10・11・12 月】 県外視察研修 【12 月】 事業報告提出(文科省)	9/3 始業式 **10/3-5 離島体験学習** **10/11-12 修学旅行** **社会見学** **10/24 音楽発表会** **10/26 公開授業(3 年)** **11/15 18 学習発表会** **11/30 12/7 公開授業** 12/25 終業式
3学期			**【1 月】** **特例地域事業報告提出** 【3 月】 決算提出	【1 月】 事業報告提出(文科省) 【2 月】 事業報告会(文科省)	1/7 始業式 2/20 到達度調査 3/20 卒業式 3/22 修了式・離任式

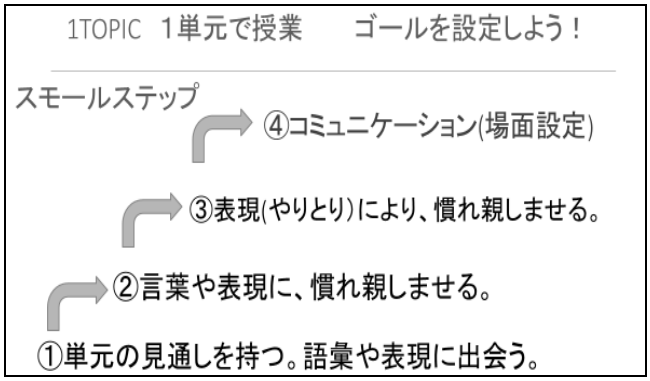
計画・要請訪問（午後・週二～三）

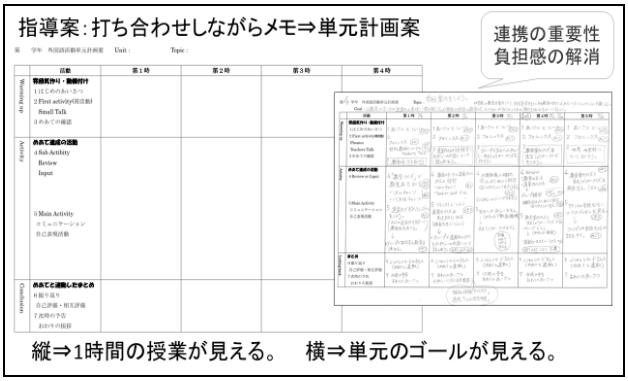
○ALT/JTE の担当学年を前半と後半で入れ替える。

Ⅴ　授業実践

1 ゴールを意識した単元構成

スモールステップによる無理のない単元構成と「聞かせること(良質なインプット)」を大切にし，自分の思いや考えを**英語で伝えたい**というモティベーションを高める授業づくりを展開する。また，アクティブラーニングを意識したグループ活動やペアワークを授業に取り入れる。





※単元をスモールステップで計画し，1 単元は 4 時間～8 時間で 1 か月または 2 週間とする。
※ALT や JTE との打ち合わせの時間の確保が課題である。単元のゴールを見据えて 1 単元ごとの打ち合わせをする。打ち合わせしながらメモを取り，ALT・JTE と協力して単元計画を作成する。

2　授業の実際

第 6 学年　外国語活動　学習指導案

(1)　単元名(Topic)　He is famous. She is great.（人物紹介）　教材：We Can! 2　Unit3　文部科学省

(2)　単元目標

○「主語+動詞+目的語」の文の語順に気付き，自分や第三者について聞いたり言ったりすることができる。　（言語の気づき）→（知識・技能）

○語順を意識して，自分やある人について紹介したり，例を参考に紹介する文を書いたりする。
(コミュニケーション)→(思考力・判断力・表現力)(言語の慣れ親しみ)→(書く活動：慣れ親しみ)

○他者に配慮しながら，第三者について伝え合おうとする。
（コミュニケーション）→（学びに向かう力・人間性等）

(3)　言語材料

I am (Ken). I [like / play]　[the violin / baseball]. I [have / want] a new [recorder / ball]. I eat (spaghetti). I study (math). I can [swim cook / skate / ski / sing / dance]. I can (play baseball well). Who is this? [He / She] is [famous / great]. 身の回りの物

既習事項

He，She，　動物，飲食物，スポーツ，身の回りの物，教科，動作，状態，気持ち　等

(4)　教材観

語順を意識して文を言ったり書いたりする（文構造の気づき）

児童はこれまでさまざまな語句や表現を使って自分の気持ちや考えを友達などと交流してきた。そして，このあとも，児童は，いくらかの新しい語句や表現と出会い，それらを使って自分たちの気持ちや考えをより深く交流することになる。その際に，英語の文構造を理解し，自分たちで言葉を紡ぎ出せれば，児童は自分の言いたいことを表現することができる。また，相手の表現していることが，より理解できるようになり，より豊かにコミュニケーションが図れるようになる。児童にそのようなコミュニケーションを通して，言葉でやり取りをする楽しさ，すばらしさを感じてほしいと思う。たとえこれまでに出会ったことのない場面であっても，自分たちの言いたいことを自分たちの力で表現したり，相手の表現していることを理解したりできるようになってほしいと願う。

そのためには，文の仕組みを理解することが欠かせない。しかし，まだ外国語学習を始めて間もない

児童に，いきなり分析的に文の構造を学習させるより，まず児童が英語の文の語順に気付き，そのことを意識しながら，自分たちでこれまでに慣れ親しんできた語句や表現を使う体験が必要ではないかと考えた。

そこで，本単元では，これまでに音声で十分に慣れ親しんでいる文を，単語が添えられた絵カードなどで可視化し，児童が語順に気付いたり，その気付きを生かして文を作ったりする活動を設定する。

(5)　単元計画

		主な活動	評価規準
Ⅰ	1	友だちと好きな物やできることについて話そう。 （既習表現の復習） ○Teachers Talk ◎Let’s Talk(I like～. I can play～.)	自分や友だちの好きなものやこと，できることなどを話したり聞いたりする。 (コミュニケーション)→(思考・判断・表現)
	2	友だちとできることや欲しいものについて話そう。 ○『Let’s Watch and Think 1』 (4 匹の動物との出会い・できること等を聞く) ◎Let’s Talk(I like～. I want～. I eat～.)	目的語を意識しながら，自分や友だちのことについて話したり，聞いたりする。 (言語の慣れ親しみ)→(知識・技能)
Ⅱ	3	動作を表す文について，日本語と英語の違いに気づこう。○『Let's Listen 1』(Who am I?クイズ) ○『Let’s play』(ポインティングゲーム) ◎『Let’s Watch and Think 2』(2 匹) (聞いたことを整理して，目的語カードを並べる)	好きなもの，欲しいものなどの表現について日本語の違いや英語の「主語+動詞+目的語」の語順に気付く。 (言語の気づき)→(知識・技能)
Ⅱ	4	カードを並べて，自分を表す文を作り，書き写そう。 ○『Let’s Watch and Think 2』(2 匹) (聞いたことを整理して目的語カードを並べる) ◎文づくり(目的語)→1 文を書き写す。	好きなものやこと，欲しいものの表現について，英語の語順がわかり，絵カードを並べ，文を作り，書きうつす。(言語の気づき)→(思考・判断・表現)
	5	バンドの一員として，自分を紹介する文を作り，書き写そう。 ○『Let’s Watch and Think 3』(ヒントを聞いて，動詞カードと目的語カードを並べる) ◎文づくり(動詞+目的語)→文を書き写す。	自分を紹介するために語順を意識して，絵カードを並べ，文を作り，書き写す。 (言語の気づき)→(思考・判断・表現)
Ⅲ	6 **本時**	言葉の順序に気をつけて，Who am I?クイズを作ろう。 ○Let’s Talk（前時の復習：バンドマンの自分） ◎Who am I?クイズを作る。(聞いたことを文へ)	ある人物の説明を聞いて理解し，語順に気をつけながら絵カードを並べ，文を作り，話す。（言語の気づき・慣れ親しみ)→(思考・判断・表現)
	7	Who am I ？　クイズを完成させ，書き写そう。 ○知っていることをクイズ文にする。 ◎隣グループでクイズを出し合い，アドバイスし合う。○4 線に書き写す。	ある人物について，その人を説明する文の語順を意識して組み立て，紹介文を書き写す。(コミュニケーション・言語の慣れ親しみ)→(思考・判断・表現)
	8	チャレンジ Who am I?クイズをしよう。 ◎Who am I?クイズを出し合い，その人物について簡単なやりとりをする。 ○STORY TIME	他者に配慮しながら，ある人物になりきって話し，その人物について伝え合う。(コミュニケーション)→(思考・判断・表現)

(6)　授業の展開

①めあて：ある人物の説明を聞いて理解し，語順に気をつけながら絵カードを並べ，文を作る。

（言語の気づき・慣れ親しみ）→（思考・判断・表現）

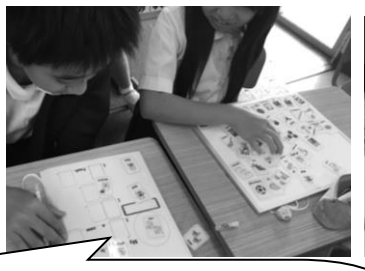
②本時の展開

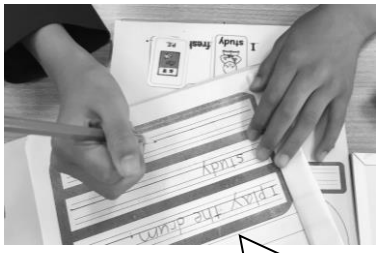
時間	主な活動	児童の活動と指導者の役割	指導上の留意点 ◎評価〈方法〉
Warming up	1はじめのあいさつ 2 Small Talk 3めあてを確認する。	1　Greeting　&　4 Rule　…HRT 2　Teachers Talk(英語と日本語の語順について) 3 めあて　…HRT	
	Today's goal　言葉の順序に気をつけて，Who am I?クイズを作ろう。		
Main activities	4 Sub activity I play the ～. I like ～. I eat ～. (I □□.) 5 Main activities ・	4　Review ○バンドの一員としての自分を紹介する。 (前時の書き写したワークシート) ※デモンストレーション　…HRT・UEZU 他者配慮の視点確認　…UEZU ①やりとりを意識する。 ②リアクションをする。(リアクションレベル) 5　Activity ◎「Who am I?クイズ」を作る。(グループ) ※黒板でデモンストレーション…HRT・UEZU ①映像を見て，誰のことかを考える。 ②映像を見ながら，紹介文を考える。 (語順を意識してカードを並べる。) ○隣のグループと Who am I?クイズをする。 ①グループでクイズを出す練習をする。 ②隣グループとクイズを出し合う。 (聞き取って組み立てた文を発話する。)	・児童支援 ◎ある人物を説明する文を語順に気をつけながら並べる。 〈行動観察・発話〉
Conclusio	7本時の学習を振り返る。 8おわりのあいさつをする。	7めあてを再確認し，本時の学習をまとめ，振り返りをする。　…HRT 8おわりのあいさつ　…HRT Thank you.　See you.　Good bye.	・めあてを再確認し，めあてと連動した振り返りができるようにする。

③評価

ある人物の説明を聞いて理解し，語順に気をつけながら絵カードを並べ，文を作っていたか。

（言語の気づき・慣れ親しみ）→（思考・判断・表現）

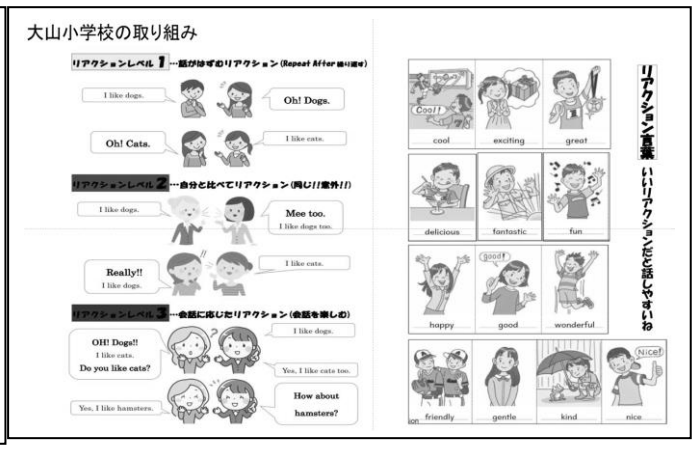




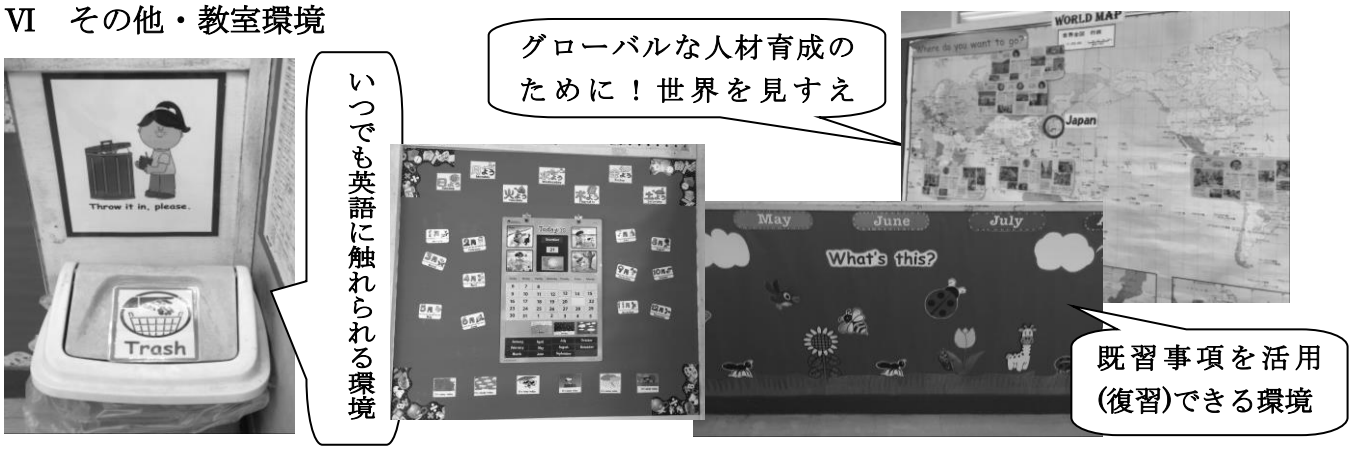
タブレットの活用
○デジタル教材の語順並べ
○「Who am I？クイズ」の映像視聴

ホワイトボード・ミニカードの活用
○言い慣れたフレーズの
　語順を意識してカードを並べる

書く活動
言い慣れたフレーズを
並べたカードを見ながら書く



Ⅵ　その他・教室環境



Ⅶ　英語教育強化加配教員としての取り組み

1　沖縄県の英語教育強化のために…小学校外国語の教科化をスムーズにするために

平成 30 年度「英語教育強化加配教員」の活用～沖縄県の取り組み～

目的

・主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成 ―他者に配慮しながら、外国語を用いてコミュニケーションを楽しむ授業づくりを通して―
・新学習指導要領をふまえた英語指導のあり方を探るとともに，教員の授業力向上を図る。

現状（課題）

・外国語・外国語活動の指導に不安をもっている。
・新学習指導要領の改訂・新教材『We Can!』『Let's Try!』の指導法。
・外国語活動の単元構成や授業づくりのポイントがわからない。

取り組み（解決策）

○英語教育強化加配教員による授業参観・介入授業
・新学習指導要領及び移行期間における外国語活動の内容の周知。(講話)
・授業づくりのポイント・移行期間の年間指導計画作成(ワークショップ等)
・公開授業(９月)　・小中高連携

派遣訪問　(中頭管内小学校・他地域)

・計画訪問　　・要請訪問
・市町村教育委員会
・英語指導力向上研修・英語力アップ研修
・ALT 研修会

授業観察
授業実践(T.T)

勤務校
大山小学校

加配措置

協力校
真志喜中学校
近隣校
宜野湾市内小学校
(8 校)

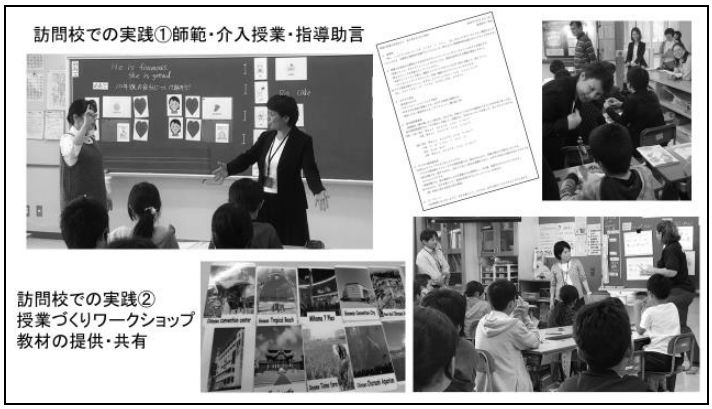
沖縄県立総合教育センター

英語教育強化加配教員

研修会・研究会

学級担任との T.T 授業・介入授業	授業づくりに関わる支援	研修会・研究会の講師		公開授業	その他
		訪問校の校内研修	教育委員会主催研修		
・授業参観後の助言・アドバイス ・T1 としての指導のあり方や ALT との関わり方について示唆 ・学級担任が T1 として行う授業へ T2 として介入する介入授業。	・授業の基本的な流れについて ・単元構成のポイントについて ・効果的なアクティビティーの活用方法について ・授業づくりワークショップ	・新学習指導要領について ・教科化の具体的内容について(イメージ) ・移行措置期間の取り組みについて(年計作成) ・英語授業力研修・英語力研修		・公開授業 ９月：高学年 中学校へのつなぎ 中学校とのちがい ・日頃の授業の公開	・優れた実践を紹介普及 ・教材の提供・共有

2　訪問校での実践　(年間約 45 回の要請・計画訪問)



沖縄県内の小学校を訪問し、先生方の不安感と負担感が減少するよう助言・ワークショップを行った。
教科化へ向けての授業改善・・・「やり取りでの慣れ親しみ」「自分の事・本当の事でのコミュニケーション」「思考・判断・表現の場面設定」

3　教育委員会・事務所主催　教員研修

小学校・中学校の違い
○「文法」ではなく
　「文構造の気づき」
○「書く」「読む」は
　「慣れ親しみ」程度
　評価はしない
　文字板書なし
○小学校 Let's try,We can
　中学校　正確性
小学校・中学校の共通点
○コミュニケーション
　やり取り
　リアクション

4　公開授業

同一単元による公開授業と「書くこと」の小学校での指導法を公開授業
小学校の先生方だけでなく中学校・高校の先生方も参観…小学校の授業スタイル・指導法を参観
小学校から中学校へのつなぎ…小学校の外国語が教科化になり平成 30・31 年度は移行期間により、毎年小学校での外国語の学習時間の違う生徒が中学校へ入学することの周知

Ⅷ　成果と課題・対応策

1　成果

(1)明るく認め合う雰囲気の授業実践

①児童が英語に対して，抵抗なく会話やコミュニケーションを楽しんでいる様子が見られた。

②普段，あまり発表しない児童もコミュニケーションをとろうと頑張る様子が見られた。

③高学年はスモールトークに意欲的に取り組んでいた。

④英語の発音に抵抗なく発することができるようになってきた。

(2)低学年からの積み重ね・学年ごとの系統的な授業実践

①英語を話すことに苦手意識を抱く児童が少ない。

②ALT・JTE・担任の英語を部分的に聞き取れる児童が多い。

③前年度学習したこと(既習)を活用できる児童がいる。

(3)単元ごとの打ち合わせ(ALT・JTE と担任との連携)

①単元の見通しが持てたのでよかった。

②2 週間に 1 回または 1 か月に 1 回程度の打ち合わせでできたのでよかった。

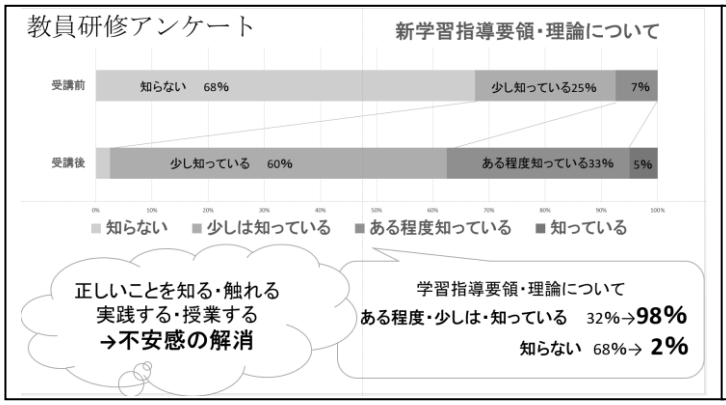
③ALT・JTE と担任との役割分担がはっきりしていて，バランスの取れた活動ができた。

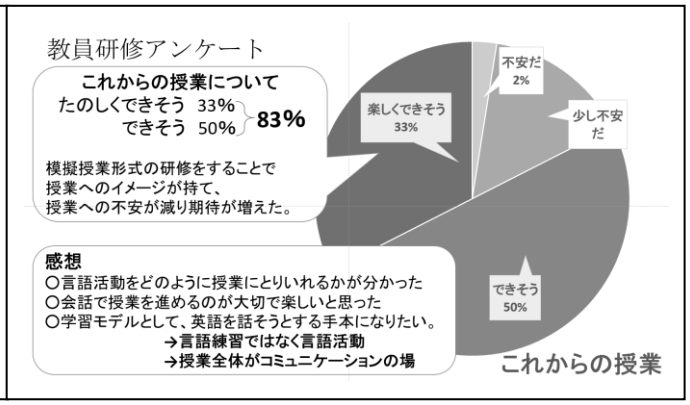
④ネイティブな英語に触れ，文化の違いに気づくことができた。

(4)学校訪問

①新学習指導要領・外国語活動教科化へむけてのイメージをもっていもらうことができた。

②先生方の不安感・負担感を減少することができた。





2　課題と対応策

(1)授業実践・児童への対応

①外国語に興味関心が持てない児童が少数いる。

②ペア・グループだと積極的活動が見られるが，全体の前だとうまくいかない児童がいる。

〈対応策〉英語を話せると自分のためになるという成功体験を持たせる実践の場を増やす。

③教材中心だと英語を楽しむというより学習になりがちで苦手意識を持つ児童が出てきた。

〈対応策〉教材を教えるのではなく，教材を活用してコミュニケーションを持たせる工夫
デジタル教材の活用の工夫…リスニングテストではなく言語活動として
「教える」のではなく「活動させる」授業の展開

④他教科との連携として 4 年生の Unit「My favorite place」を総合的な学習の時間「福祉・アイマスク体験」と関連させたかったが，日程が合わずもったいなかった。

〈対応策〉他教科の連携も考えて早めに対応し，日程・時期を合わせていきたい。

(2)学習環境・打ち合わせ時間の確保

①姿勢の悪い児童が少なからずみられる。〈対応策〉H31 年度はいす・机の整備をする

②時期によって行事や生徒指導等で打ち合わせ時間の確保が難しかった〈対応策〉週時程改善予定